

戦後論調に日本・日本人の自画像を探る(レジメ)

自画像そのものを探るというより、自画像を探し求め、描こうとする努力の跡を辿ることになる。

後進性の認識 脱亜入欧 近代化(富国強兵) 近代の超克(大東亜共栄圏) 敗戦 近

代化の失敗・後進性の認識 近代化(経済大国化) 近代の超克(ジャパン・アズ・ナン

バーワン) 経済の停滞・後進性の認識(否定的異質論・欧米基準・自信喪失)

近代化の失敗・後進性の認識 (否定的異質論・欧米基準・自信喪失)

1946(昭和21)年

丸山真男「超国家主義の論理と心理」『世界』5月号

川島武宣「日本社会の家族的構成」『中央公論』6月号

桑原武夫「第二芸術 現代俳句について」『世界』11月号

ルース・ベネディクト『菊と刀』(1946年、邦訳48年教養文庫)

全体的傾向として、

(日) 集団主義 (欧米) 個人主義

(日) 恥の文化 (欧米) 罪の文化

近代化(経済大国化) (肯定的異質論・日本回帰・自信回復)

相対的肯定

1957(昭和32)年

梅棹忠夫「文明の生態史観序説」『中央公論』2月号

優位的肯定

1964(昭和39)年

中根千枝「日本の社会構造の発見」『中央公論』5月号

(単行本は『タテ社会の人間関係』現代新書 67年)

1965(昭和40)年

尾高邦雄『日本の経営』中央公論社 65年

1971(昭和46)年

土居健郎『「甘え」の構造』弘文堂

(イザヤ・ベンダサン「日本人とユダヤ人」も日本称賛の書と読まれる)

1972(昭和47)年

司馬遼太郎「坂の上の雲」全6巻(同年8月完結)文藝春秋

1979(昭和54)年

村上泰亮・公文俊平・佐藤誠三郎『文明としてのイエ社会』中央公論社

エズラ・ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』79年 邦訳・TBSブリタニカ
日本的経営の賛美も頂点

1983(昭和58)年

村上泰亮『新中間大衆の時代』中央公論社

否定的異質論・欧米基準・自信喪失

外国人による異質論の台頭

チャルマーズ・ジョンソン『通産省と日本の奇跡』82(昭和57)年 邦訳・TBSブリタニカ

ハルミ・ベフ「イデオロギーとしての日本文化論」『思想の科学』84(昭和59)年2月号

ピーター・デール『日本的独自性の神話』86年 抄訳『中央公論』86年(昭和61)年11月号

カレル・G・ファン・ウォルフレン「日本問題」86年 邦訳『諸君』87(昭和62)年4月号 『日本
権力の謎』88年(邦訳『日米逆転』ダイヤモンド社)

ジェームズ・ファローズ『日本封じ込め』89年 邦訳『中央公論』89年7月号

上記に呼応し、日本システムの優位性への懐疑が台頭

1984(昭和59)年

尾高邦雄『日本的経営 - その神話と現実』中公新書 84年

1985(昭和60)年

小沢雅子「『階層消費』時代の幕開け」『中央公論』7月号

(『新・階層消費の時代 - 所得格差の拡大とその影響』日本経済新聞社)

1986(昭和61)年

山崎正和『文化開国への挑戦』中央公論社

(1985年『柔らかな個人主義の誕生』)

バブル期の論調

日本の優位性の再定義・日本的経営の賛美

異質論への違和感から自信喪失へ

異質論への違和感を表明するが、バブル崩壊に伴い、自信喪失へ。1991(平成3)年が転換期。

ジョージ・フリードマン、メレディス・ルバード“The Coming War with Japan”(邦訳、徳間書店)

特集「日本人はなぜアメリカが嫌いか」、特集「いまアメリカを愛せるか」、「再説『日米戦わば...』」、「『孤立』か『服従』か」、「今こそ実現できる『大東亜共栄圏』」、「平成景気はどこへ行く」

1月16日 多国籍軍、イラク空爆開始(湾岸戦争~27日)

4月26日 自衛隊の掃海艇、ペルシャ湾へ(自衛隊初の海外派遣)

5月19日 雲仙・普賢岳噴火

11月 5日 宮沢内閣成立

12月 25日 ゴルバチョフ大統領辞任を表明し、ソ連邦消滅

1992(平成4)年1月のブッシュ・アメリカ大統領の来日

(続)否定的異質論・欧米基準・自信喪失

1984年時点への回帰

1999(平成11)年

山田昌弘「パラサイト・シングル」『Voice』8月号

2000(平成12)年

佐藤俊樹『不平等社会日本』中央公論新社

添谷芳秀「オーストラリアに学ぶこと」『中央公論』9月号

提言にかえて：イメージとしての憲法の文言

温故知新・不易と流行

憲法の文言・表現

国際語たる英語との関係